

近世騎人

千七百七番

冊五

熊本阿
播磨屋
熊太郎



畸人傳序



鷦居穀食以頤志。牆東竈北。不與藪澤。二
 其趣。而不以高逸。自處。推拍鞞。斷與物宛
 轉。肆情坦率。不自檢括。而非所謂任誕也。
 冥外以護內。雖不為同異。亦有所不為。而
 非所謂狷介也。或才藝絕人。而不求售於
 世。土木形骸。樸野如愚。或經術吏才。取仕
 於封君。而行藏不拘。以規矩夫。謂之獨行。

乎曰非也。稱之卓行乎曰非也。其人固非
四科之屬。其行不可以一端指名。不得已
而強題之曰畸人。畸者何曰畸者奇也。其
間有儒而奇者。有禪而奇者。有武弁而醫
流。而詩歌書畫雜伎家。而奇者。要皆為一
奇。所掩人不復知。本分為何人。故概以畸
人目之。云態生世純好奇之士也。從近世
上遡勝國。得所謂畸人者。數十負。狀而

傳之。自歎于聞見不廣。詢諸伴蒿蹊氏。蒿
蹊氏曰。余之素志也。余既衰。以至若干人
請合而一之。態生善畫。乃冥搜貌神。其於
服飾器用。六皆原其代所尚。而一筆不苟。
下蒿蹊氏以國語為文。宏贍簡遠。妙盡情
態。頗似臨川王形容晉人。夫其人既以畸
稱之。固弗求聞達於當時。豈復屑乎自
圖不朽者耶。大約羊代浸遠。聲迹湮晦者。

十七八。二子其奚自而得之也。蓋就其官地鄉閭跡之。或訪之。身孫遺友。或得片之。隻事于敗冊蠹簡。百方蒐羅。鑽燧屢改。而纔就緒。且其事必覈實。其亡必有根。至於好事者。自後附益。增長者。概乎無取焉。視之。彼顯人名流之宗系。言行。粲然可臚列者。則勞逸為何如也。一日。高蹊氏以首簡授余。謁序。余曰。此範世矯俗之書也。請急

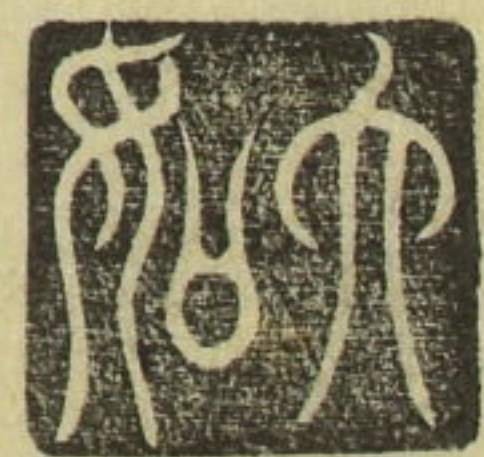
序二

傳之。或雜曰。若人之畸也。是惟性分所至。固非學而可企矣。詎可以為範乎。曰。不然。以余觀之。凡此諸人。率性而動。各求其志。其迄雖或失中行乎。至乎其不屑於當世之名利。則一揆耳。故雷霹之琴。火成之鏢。自然成趣。非待繩削而然也。夫經藝文綵。足以黼黻治具者。一技一能。通乎精微之蘊者。幅巾塵尾。鉅、備、談性理而折天

人之際者。曲柔拄杖。講經論據。巨利者。世
固不乏其人。而大抵與古之聖賢其骨格
終不相類者。何也。唯名之與利。為之崇也。
嗚乎。此數者。皆人之所甚難。能而遺名利。
之難。又有甚焉。則名利之累人也。豈特焚
車擢金之類而已哉。莊周有之。曰彼其所
殉。仁義也。則俗謂之君子。其所殉。貨財也。
則俗謂之小人。有味乎其之也。今觀傳

中之人。其於古之人也。未知如何。然已有
典刑存焉。故其流風餘韻。猶足以使夫貪
婪躁進之士。一披其卷。赧然自省。幡然易
操矣。謂之範世矯俗之書。不為過也。若
夫施其貌。蠟其言。外遺名利。而內以為名
利之鉤者。乃此書之罪人也。寶鑑既懸。而
妖魅無遁形焉。序而勸其傳。不亦宜乎。
昔

寛政二年歳集庚戌春三月六如敬納
慈周叙於峨阜無著菴



觀藏道人永忠原書



序四

晴人傳跋

夫画は又の餘文の画乃ありかり大章の
殊氏画埋中二章を補ふ也又の及る
有る補入娘かきこれの孔夫子繪の
こはまをほふもかきと繪の多を會
せられ字もきりあふりよりの義がれいす
て照寫傳神あふりてせりからしき及る
色新りてり孝庵のあふりて唯佛仙の
像聖賢乃新を掃くと唐の代畫ふりて
文は質古なりしり南の宗もく雅俗を
評編る王允美曰吳道子孝思刻以ふ
の画の實もかきと近し今この画の雅ふ

しし大書(雖乃尚存)畫法の病りと吾邦

王室隆一法大岡忌寸に和画師乃存を
燭の紀金義巨勢金島久物之進心
此の心名彦あれしは画師は今所謂
世態画として山水花鳥を多くす唯衣冠服
象蓋付宮殿がまゝ画すは後世傳り
て画の實多し一筆もふくむ事あり
たりて近世隠士模像あれり其の画は
岡田伴舟の傳りしもの清くし
つゝはれしもの人の事なきを
をいひてあふみ志ありされしは隠士傳
と記せるもの元政乃隱進傳林氏の進史

あつたりたりと續隱進傳ありしれり
ををまふりしれりいけしは隠
を傳りし名をいひてあり市井もま
まゝしは隱探あり人なり隱多し
くきりしは隠し隠しは
しは隠し人なりしは隠し
てあふみしは隠しは隠しは
亦もあふみしは隠しは隠しは
其の進画も月を思ひてけしは
秘れしは面見しれり多しは
をいひてあふみしは隠しは
古よりして装束の模範及乃制を

画ぶらぬん人づらふを〜
 其し〜
 古時乃冠服宮室山川乃風致に
 向く止〜
 画は道あるを〜
 重す〜
 画ぶらぬん人づらふを〜

天明八戌申夏四月日

花頼三熊思孝



近世時人傳

題

○此記は〜花頼三熊思孝の御つらて〜
 其を〜
 同を〜
 後れ〜
 後〜
 ○此記は〜
 貞勝人〜
 わが〜
 同〜

あつらひのちやうどしるしめりていふに
 此の書はこれにあらざらん
 ○その中に傳はるる書は
 室の奇事とて画の書に
 傳はるる書はこれにあらざらん
 人を知るにあらざらん
 志をあらわすにあらざらん

天の八代申楽の年月

天國の書に發自述

目錄

第一卷

中江藤樹 附蕃山氏
 僧 桃水
 長山霄子
 義狭綱子
 伊藤介亭
 駿府義奴
 河内清七
 近江新六

貝原益軒
 僧 無能
 甲斐繁子
 推者七兵衛妻
 同 久兵衛妻
 宮 筠圃
 木揚利兵衛
 大和保麻子
 龜田久兵衛

第二卷

三宅尚齋 附妻女

米屋与右衛門

寺外玄溪

小野方秀和妻 附秀和歸秀和歌

遊女大橋

石野權兵衛 同市兵衛

賣茶翁

北村篤所

岡 周防守

僧 鐵眼

内藤平左衛門

大石氏僕

尼 破鏡 附曲筆

遊女某尼

隱士石卧

江村專齋 附別齋

西生永濟

青木長廣

僧別首座

中倉忠宣 附山中奇人

僧 圓空 附僧俊乘

第三卷

隱士長流

新田春滿 附在滿門人加養真洞

佐田儀兵衛

山科農丈 附絆中五衣

加嶋宗叔

長崎餓人

僧 契冲 附今半仙剛海小長冲仲田志蕭

挑山隱者 附了全衛乞丐

子車翁

金蘭齋

文展狂女

相者龍袋

森 金 去

僧 佛 行 坊

僧 涌 蓮

右田見良 附僧竟芝
智二庵 相房

僧 日 初

弟四卷

柳澤湛園

求大雅僧

手嶋堵庵

北村依庵

土肥二三

池 大雅 附其五

澤村琴阿 附其六

高橋圖南

久淵奇景

廣澤長孝

僧 似 雲

矢部正子

室町宗甫

近江狂僧

僧 惠 潭

祇園梶子 附百合子

惟 然 坊

表 太

弟五卷

五河天民 附子投亨安

戶田旭山

僧 文 軒

井上通子

北山友松子

隱家茂睦

安藤年山 附朴

有馬涼及

甲斐徳本

僧 圓通

山村通庵
松本殿堂

白 幽子

北村雪山

龜田新米

美濃隠僧

時人傳卷之一

中江藤樹

附著山氏

藤樹中江氏諱系字惟命、母名五右衛門、江島守忠
 郡小川邑人なり藤樹下小寺に居り後藤樹下江島守忠
 するともていづ人ひきつと好まじき事ありて是年卯の号
 瓜敷くろくろく光(守)と嫌孫(守)有て野郎(守)に流す
 群(守)にすくすくして野郎(守)に流す
 九實の時社又去き野郎(守)に流す
 侍入社又去き小寺(守)に流す
 ちう小寺(守)に流す
 の大舟如藤(守)に流す
 ありう侍(守)に流す

若くは不徳の實と云ふる事、先生は人として曰き、
小女は、御印と云ふ根まると居る、病れ、彼つと云
すは不徳、彼と云、
作らば、
寺、
傳つた、
八月、
生、
長、
傑、
年、

京師、
歿、
病、
改、
常、
名、
年、
外、
お、
と、
し、
暫、

待

紫歎——とて、性甚謙——とて、其身の及ぶる
——とて、心甚平——とて、近づく——とて、喜ぶ——とて、常々言ふ者
人よ、ちとら——とて、但、若、慈、道——とて、思ふ——とて、
己、愛、人、濟、世——とて、亦、く、世、の、故——とて、其、事、の、書
多く、年、假、名、に、記——とて、通、信、の、り、教、の、り、了、寧
及、後、丁、家、道、養、生、所、多、其、法、制、大、和、信、訓、樂
訓、や、り、の、あ、り、の、り、の、り、鄙、事、紀、の、り、た、日、甲、の
西、勢、に、よ、り、の、り、の、り、近、世、法、儒、唯、自、己、の、り、ま、り、と
亦、て、梨、棠、と、費、了、の、り、の、り、お、ま、り、の、り、天、淵、の、り、
——とて、大、史、の、り、の、り、大、川、と、様、の、り、の、り、
法、國、の、り、の、り、の、り、の、り、の、り、の、り、の、り、
故、週、日、光、の、り、の、り、の、り、の、り、の、り、
大、和、巡、行、明

巡、の、り、の、り、と、著、せ、れ、と、自、の、詩、文、事、に、及、り、
唯、旅、客、の、脚、と、も、の、り、の、り、の、り、の、り、の、り、
遇、亦、多、く、里、と、も、の、り、の、り、の、り、の、り、
某、十、一、考、公、考、と、事、を、致、す、と、の、り、
月、俸、と、賜、ひ、て、の、り、の、り、の、り、の、り、
八、月、廿、五、日、卒、す、の、り、の、り、の、り、の、り、
ゆ、之、よ、其、身、存、在、の、り、の、り、の、り、の、り、
己、心、先、生、の、り、の、り、の、り、の、り、の、り、
撰、心、の、り、の、り、の、り、の、り、の、り、
乃、く、始、可、之、り、の、り、の、り、の、り、
定、之、と、海、了、の、り、の、り、の、り、

若、慈、思、道、極、精、造、徹、愛、物、為

務、夏、天、不、歌、翰、藏、増、頭、謙、遜、
愈、輝、遺、訓、存、案、後、多、承、依、

け、所、う、十、餘、字、の、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、
母、を、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、
後、に、乃、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、
あ、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、

或、く、の、居、る、人、先、生、帰、國、の、所、始、も、回、り、お、寄、り、
各、姓、名、を、お、ま、り、お、ま、り、お、ま、り、お、ま、り、
と、い、う、と、い、う、と、い、う、と、い、う、と、い、う、
男、人、を、お、寄、り、お、寄、り、お、寄、り、お、寄、り、
母、を、お、寄、り、お、寄、り、お、寄、り、お、寄、り、
と、い、う、と、い、う、と、い、う、と、い、う、と、い、う、

て、お、う、う、に、臨、み、先、生、を、お、寄、り、お、寄、り、
と、い、う、と、い、う、と、い、う、と、い、う、と、い、う、
久、し、く、お、寄、り、お、寄、り、お、寄、り、お、寄、り、
情、を、お、寄、り、お、寄、り、お、寄、り、お、寄、り、
と、い、う、と、い、う、と、い、う、と、い、う、と、い、う、
衆、軒、の、子、通、名、を、お、寄、り、お、寄、り、
漢、事、一、端、日、本、史、時、紀、読、ま、り、お、寄、り、
先、生、を、お、寄、り、お、寄、り、お、寄、り、お、寄、り、
嗣、人、を、お、寄、り、お、寄、り、お、寄、り、お、寄、り、
と、い、う、と、い、う、と、い、う、と、い、う、と、い、う、
先、生、の、書、目、柳、軒、好、ま、り、お、寄、り、お、寄、り、
頂、好、を、お、寄、り、お、寄、り、お、寄、り、お、寄、り、

冬、善後氣、女子、終、終、二十年、未、付、信、居、之
と、代、長、を、も、り、て、終、不、作、と、致、り、て、宿、と、焚、介
け、水、高、の、も、り、を、り、も、水、也、り、手、曰、凡、古、州、ハ
ら、ふ、一、隻、眼、と、著、く、着、べ、一、此、水、高、の、水、也、
お、通、び、び、り、一、物、と、す、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
と、あ、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
と、水、人、微、笑、て、去、

又、水、人、神、々、と、上、湯、明、い、ま、と、終、冠、の、日、及、第、一、
そ、の、水、人、神、々、と、上、湯、明、い、ま、と、終、冠、の、日、及、第、一、
終、夫、は、終、ま、る、家、也、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
床、の、上、に、一、た、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
人、張、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、

終、入、水、を、も、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
一、事、と、ホ、と、し、も、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
ハ、起、こ、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
終、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、

長山曾子

此、終、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、

曾子、水、戸、府、城、長、山、七、平、東、り、り、り、り、り、り、り、
終、終、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
真、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
ハ、終、終、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
と、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、

家へ我々... 細者... 又... 徳治... 第一の美女...

... 徳治... 第一の美女... 徳治... 第一の美女...



地を心控動とといふるふ、新小原と被下、心はふ
 して村民お人お結く、身は、種刀とて、刺ま、一人を
 帯とて、ま御と、つ、祝して、あま、集う、を、被さる、
 手く、種、く、其、者、の、種、は、種、く、と、の、月、は、成、る、て、種、く、種、
 手、り、ま、新、意、の、心、地、ま、れ、の、ま、の、契、と、後、は、種、
 て、種、と、種、の、と、ま、種、之、生、の、種、地、ま、る、の、
 伊藤小原

今、身、は、種、の、氏、種、長、衛、字、心、種、は、種、名、を、以、て、
 之、生、の、種、ま、る、の、心、種、質、篤、く、ま、る、と、て、種、小、原、の、種、
 友、あ、つ、く、ま、る、の、氏、種、雷、と、種、つ、く、ま、る、の、心、種、
 種、族、の、種、ま、る、の、心、種、早、れ、の、心、種、種、ま、る、の、心、種、
 川、ま、る、の、心、種、夏、日、の、種、ま、る、の、心、種、種、ま、る、の、心、種、
 伊藤小原

伊藤小原

伊藤小原



向東疎拙之良諫身之竹在傍也佇世
 庭幽苦抱如王子猷

回風一陣冷
 素戰生六率
 為念
 今以
 最
 窮
 然
 可
 見
 未
 嘗
 矣
 特
 補
 也

吾友嘗引第一神題風林

官亭



Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise. The text is written in a cursive style and covers the entire page.

Handwritten text in Arabic script, continuing the treatise from the previous page. The text is written in a cursive style and covers the entire page.

研人傳
元々東洋間不出者の山貨多ぶるに因り
此より一歩一歩進んで人々の心を
こめて導き出し本心より出るべき
心は、古くよりあるが、生かす人は花類
より拾いの筆小あふ

研人傳巻一 一紙

